

人びとは災害と どう向き合ってきたのか — 歴史学の視点から —

日本列島は、長い歴史の中で数々の自然災害に見舞われてきました。また、社会に危機をもたらす災いという点では、疫病も災害と言えます。こうした災害と社会との関係について、歴史学には幅広い研究蓄積があります。

そして、近年は地震や水害が頻発し、世界的に影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の流行もありました。現代社会は、そうした災害と向き合い、対応していかなばなりません。とりわけ、令和6年能登半島地震および奥能登豪雨からの復興は、長期的な支援や展望を必要とします。

今回の石川の歴史遺産セミナーでは、最新の研究成果から過去の人々が災害とどのように向き合ってきたのかを学び、災害と隣り合わせである現代日本を生きる指針としたいと思います。



（大正11年 犀川大洪水絵葉書 当館蔵）

<令和7年>

8/2（土）13:30～15:00

1 「日本古代の災害と社会」

講師 今津 勝紀 氏（岡山大学 文明動態学研究所・所長）

8/10（日）13:30～15:00

2 「近世中期の気候変動と能登奥郡」

講師 武井 弘一 氏（金沢大学 人間社会研究域 学校教育系・教授）

要申込

1回ずつの受講
が可能です

8/24（日）13:30～15:00

3 「広域複合災害としての関東大震災—都市と農山漁村の被害と復興—」

講師 土田 宏成 氏（聖心女子大学 現代教養学部 史学科・教授）

会場：石川県立歴史博物館 2棟2階 ワークショップルーム 定員：各回50名 参加費：無料

申込〆切：① 7/21（月・祝） ② 7/28（月） ③ 8/11（月・祝） ※すべて必着

申込方法：当館HPイベント参加申込フォーム、または、

往復はがき（第〇回イベント名／氏名／住所／電話番号）

※応募多数の場合は抽選。開催日の5日前までに結果が届かない場合は、下記までお問い合わせください。

問い合わせ：石川県立歴史博物館 〒920-0963 金沢市出羽町3-1 電話：076-262-3238（学芸

イベント参加
申込フォーム

